

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮南小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	既習事項を振り返り、新たな学習に結び付けたり、日常生活に生かしたりできるようにしていきたい。国語では、下学年で習った漢字を日常的に使えるようにしたり、算数では、既習事項を思い出し、振り返ったりしながら、さらに基礎・基本の定着を図りたい。タブレット学習と共に、具体的な操作等を取り入れることで、実感を伴ったうえで量の大きさの概念や比べ方について理解させたい。
思考・判断・表現	「話すこと聞くこと」「書くこと」の力を高めるために、今後もグループディスカッションを取り入れ、自分の考えを表現したり、他の意見に対するフィードバックを行ったりする活動を実施していきたい。また、「読むこと」の力を高めるために、複数の資料を「つなげて読む」「比べて読む」「重ねて読む」などの活動を意図的に取り入れていきたい。算数では、数直線や数の大小をしっかりと押さえ、図を用いる便利さを児童が実感できるようにするなど、系統立てて指導していく必要がある。理科では、予想や仮説を立て、それらを基にして観察、実験の計画や方法を考え、主体的に問題が解決できるよう学習活動を工夫する必要がある。

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 【学習上の課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・前学年までの漢字の習得、主語と述語の関係についての理解ができていない。また、社会、理科でも、前学年までの内容を忘れてしまっている児童が多い。 【指導上の課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・個人差を埋めるための指導が不十分である。 ・反復、習熟に取り組む時間の設定が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習のスキルアップタイム、国語タイムを有効に活用し、基礎基本の定着を図る。ドリルパーク、スタディサプリ等を活用し、反復・習熟に取り組む。【単元ごとに1回(10分)以上の実施】 ⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・学びを振り返り、自分の課題を克服する時間を設定する。【単元の最後に実施】
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 【学習上の課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・国語「自分の考えを話すこと」「話し方を理解すること」「他人の考えと比較しながら聞き、自分の考えをもつこと」等、話すことについての定着が低い。 【指導上の課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の中で、決まった児童だけでなく、全ての児童が自己表現できる場を設定していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ⇒ <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用について肯定的に捉えている児童が多いことから、各教科において、ICTを効果的に活用し、考えを共有したり、深め合ったりする機会を意図的に設定する。【協働的な学びの場の設定】[R6年度さいたま市学習状況調査]授業で学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていく。【質問項目において、肯定的な回答の割合が95%以上】

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	A	生活習慣等アンケートの結果から、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」「学校の授業時間以外に、勉強をしますか。」に肯定的に答える児童の割合が高かった。授業の中では、課題を早く終了した児童が主体的にタブレット学習に取り組む様子がよく見られる。タブレットを活用した基礎的な学習が定着しているといえる。
思考・判断・表現	B	「授業で学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思いますか。」の質問項目において、肯定的に答える児童の割合は、93.05%であった。普段から、ICTを効果的に活用した授業を展開する教員が多く、児童もタブレットを使いこなし、自分の考えをまとめたり、意見を共有したりすることができた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語、算数共に全国平均値を上回り、概ねよくできている。また、ICT機器の活用における調査では、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」「分からないことがあった時にすぐに調べることができる」と応える児童が90%を超えている。子ども主体の学びとなるような授業を今後も継続していく。
思考・判断・表現	国語、算数共に全国平均を上回り、概ねよくできている。国語においては、「事実と感想、意見とを区別して書く」こと、算数においては、「数学的な言葉や数を用いて、理由を説明すること」についてさらに高めることができるように、協働的な学びの機会を適宜確保しながら「なぜそのようなのか？」を考えたり、説明したりする活動を重視したい。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	「授業の内容はよくわかりますか。」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目に対し、肯定的に答える児童が多く、どの学年も概ね、さいたま市平均値を上回っている。「知識・技能」の観点では、6年生の理科のみ市平均を下回った。また、領域ごとに見ると、高学年の算数「変化と関係」、5年生の理科「生命」を柱とする領域、6年生「地球」を柱とする領域で、さいたま市平均を下回っていた。いずれも既習事項を振り返り、日常と結び付けたりできるようにしたい。
思考・判断・表現	どの学年も概ね、さいたま市平均を上回っている。教科、領域ごとに見ると、国語は、中学年の「登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりや結び付けて想像して読むこと」、高学年の「自分の考えが伝わるように適切な図表を用いて書き表し方を工夫すること」に課題が見られた。算数は、高学年の「割合:基準量と比較量」や「単位量あたりの大きさ」「複数の数量から立式すること」についてが課題である。理科は、5・6年ともに、「観察方法を選択すること」や「実験結果を分析して考察すること」に課題が見られた。

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習のスキルアップタイム、国語タイムを活用し、ドリルパーク、スタディサプリ等で反復・習熟に取り組んだ。また、夏休みには、1学期の復習に取り組んだ。 ・単元を振り返り、課題を克服する時間を設定できた。 	変更なし
思考・判断・表現	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業実践を十分に行っているが、ICT活用にこだわらず、日頃から、ペアやグループで考えを共有したり、深め合ったりする機会を設定したい。全体の前で答えたり、分りやすく説明したりすることに抵抗を感じる児童もいることから、抵抗なく隣同士で答えを確認したり、思考を伝え合ったりする機会を普段から取り入れていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短い時間で話し合う活動を取り入れ、互いの考えを共有したり、深め合ったりする機会を多く設定する。【協働的な学びの場の設定】[R6年度さいたま市学習状況調査]授業で学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていく。【質問項目において、肯定的な回答の割合が95%以上】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)